

Topic 3 : Taiwan

[Abstract]

プライバシーとアクセシビリティ：CAPTCHAが障壁に与える影響

Qiu Daoxin `Lin Congji

1930年代の補助技術の開発以来、西洋社会には科学技術的楽観的な見方があり、科学技術は身体的、精神的障害者の社会復帰や障害からの解放に役立つと信じられています。しかし、ビュー、科学技術と障害の歴史のための個々の技術の開発は非常に複雑な関係の間に。科学技術の発展自体は必ずしも障害を持つ人々の生活を改善するものではなく、科学技術の開発プロセスは障害を引き起こし、時には障害を引き起こす。また、いわゆる障害物は同種のグループではないため、科学技術は障壁に利便性をもたらすことができるが、他の障害に新たな障害をもたらす。

たとえば、1960年代の大型コンピュータは視覚障害者に新しい仕事をもたらしました。その時、プログラムはタイピストによってカードホールに書かれていたので、盲人の宇宙組織能力は有能なプログラムデザイン作業でもあります。しかし、1980年代にパーソナルコンピュータが登場した後は、タイピストの依頼を受ける必要はなくなり、プログラマ自身がプログラムを入力するようになった。初期のIBM互換コンピュータは、オペレーティングシステム用のテキストベースまたはコマンドラインベースのMS-DOSです。そのため、盲人は音声や点字を使用してコンピュータ

を使用できます。しかし、精神遅滞や失読症は祝福かもしれませんが、グラフィカルユーザーインターフェイス（GUI）ベースのアップルコンピュータとWindowsシステムが登場していますが、これらの「美しい単調な視覚情報」ではなく、視覚障壁 それは災害です。

インターネット技術の発展のためのもう一つの新たな挑戦は、私たちがウェブサイトに登録したりログインしたりするときに、英語の手紙が詰まった「検証コードの仕組み」がしばしば見られるということです。「検証コード機構」の正式名称は、「コンピュータと人間を離れさせるために完全に自動化された公開チューリングテスト」（CAPTCHA）であり、ロボットがチケットを作るのを防ぐことを主な機能としています。メッセージ、スパム広告、その他の干渉サイト、アクティビティなどが含まれます。ユーザーは、その広告やハッカーが使用するロボットではなく、彼が人間であることをサーバーに証明するためにCAPTCHAテストに合格する必要があります。初期のコンピュータはそのパターンを認識することができませんので、CAPTCHAは、「人間」は視覚的、デジタル的またはテキストの認知能力を備えていなければならないことを前提にしています。しかし、「光学認識技術」（光学式文字認識、OCRと呼ばれる）または人工知能（Artificial Intelligence、AIと呼ばれる）の開発では、視覚障害者はパターンを同時に簡単に識別でき、人々や機械の境界が再びぼやけてしまいます。ロボットがOCRまたはAIに認証コードの検証に失敗した場合、コンピュータプログラマは更新されたCAPTCHAを開発する必要がありますが、同時に視覚障害者を特定のページの使用から除外する必要があります。

このオンラインプライバシーと技術競争のアクセシビリティでは、人々と機械の境

界が変わり続ける一方で、情報世界の状況における視覚障害者も絶えず再配置されています。長い間、支援技術の目的は、ユニバーサルと統合の目標を達成するための障害の欠如を補うためにマシンを使用することです。しかし、ロボットが現場に干渉したり、インターネットの安全性を確保するのを避けるためには、IT部門はインターネットの世界から排除されるように、マシンの識別を超越しなければなりません。したがって、科学技術が障害に及ぼす影響は、一方的に独立した開発ではなく、複数競争のダイナミックな関係である。